

※この文書の内容を引用する際には、引用元を明記するようお願いいたします。

## 「関東在住の釜石ゆかりの方々への東日本大震災に関する調査」

### アンケート結果の概要

2014年5月

東洋大学社会学部 准教授 西野淑美

2013年10月、現在関東にお住まいの釜石市出身者・釜石市への通学経験者の方々に、東日本大震災に関するアンケート調査にご協力いただきました。被災地外に住みつつ、被災地に強いつながりを持つ釜石ゆかりの方々は、被災地の内と外の両方の視点をお持ちです。関東と岩手の間で時に葛藤されながらも、被災地への関心を喚起し続ける大事な存在であり、この方々の行動と思い記録に残したいと考えました。

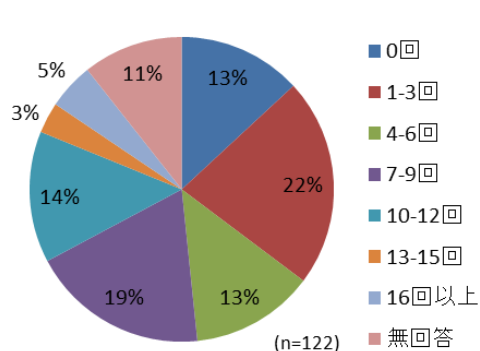
震災前からの「希望学プロジェクト」釜石調査でお世話になった、岩手県立釜石高校同窓会関東支部と、釜石はまゆり会役員有志の方々のご協力を得て実現した今回の調査では、122名の方々から有効回答をいただきました。ご回答くださった皆様に、心よりお礼を申し上げます。

※今回の調査結果は、調査方法（末尾参照）の性質上、同郷の方々と積極的に交流したり情報を集めている皆様の傾向であることにご留意ください。

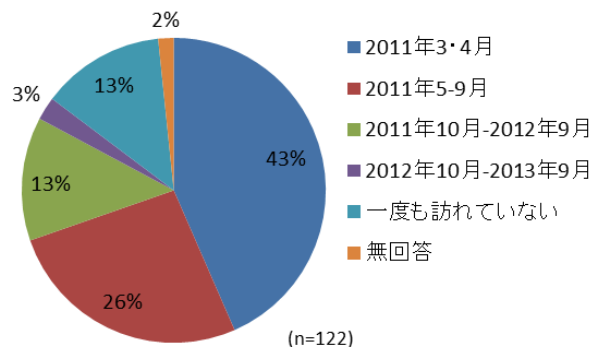
#### ■釜石・大槌への訪問

- ・震災発生後から調査時点（2013年10月初め）までに釜石・大槌を訪問したことがある方は、回答者の87%にのぼりました。訪問頻度は最初の半年間が高くなっていましたが、その後も、ならずと年に1-2回は訪問されていることとなります。
- ・43%もの方が、震災発生直後の2011年3・4月に、釜石・大槌を震災後初訪問していました。ただし、年齢が上がるほど初訪問時期は遅くなっていました。

釜石・大槌への震災後の訪問回数



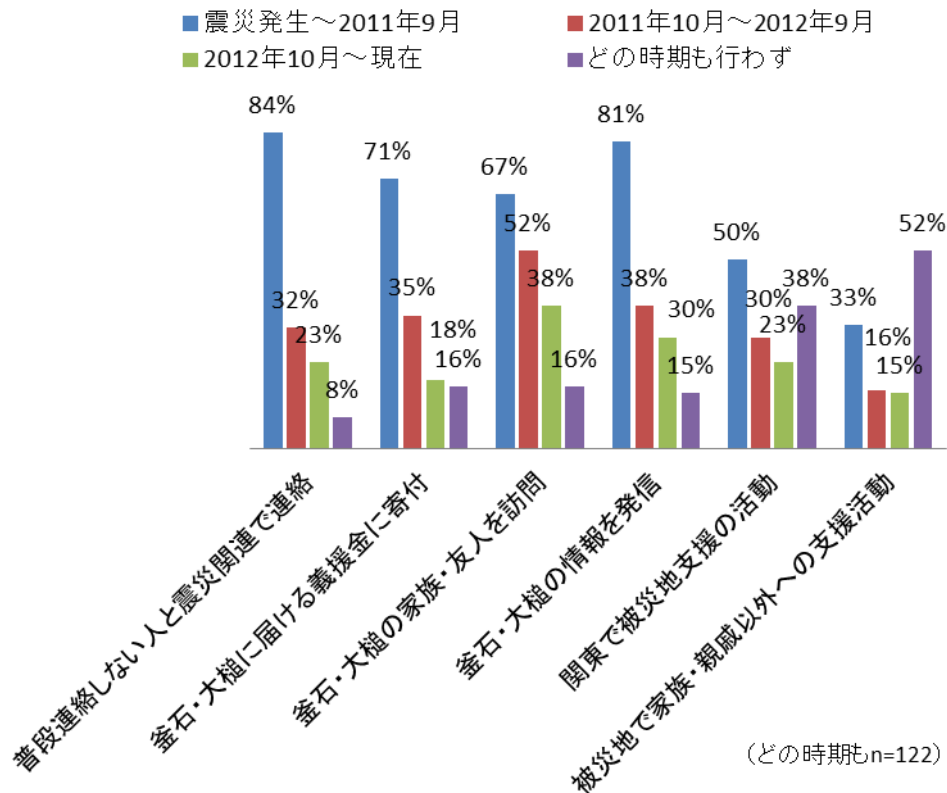
釜石・大槌への震災後初訪問の時期



## ■震災に関連してとった行動・支援活動

- ・震災から2年半の間、関東在住の釜石出身者の方々は、多くの行動をとりました。特に震災発生から半年の間には、回答者の84%が普段連絡しない人と震災に関連して連絡を取り、81%の方が自ら釜石・大槌の情報を発信し、71%の方が釜石・大槌に届ける義援金に寄付をされています。
- ・2011年10月以降の1年間になると、「現地の家族・友人の訪問」を除いて各行動率は概ね30%台になりました。とはいえ、10-30%台の方が、2012年10月以降にも具体的な活動を続けていることは、少ない数字ではないように思えます。
- ・約40%の方がいずれかの時点で、被災地で家族・親戚以外への支援活動を行いました。親族を越えて地域の役に立ちとうとした方が多くいらしたことがうかがえます。
- ・家族や仕事の制約があった、現地での支援の方法がわからなかった、かえって迷惑になると思った、故郷の現実を見るのが恐かったなど、行動をとらなかった事情についてもご意見が寄せられました。

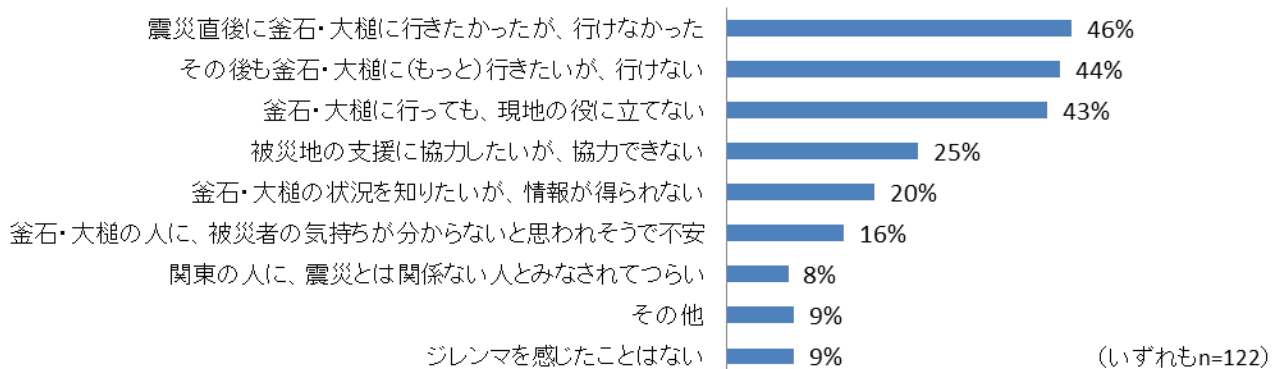
### 震災に関連してとった行動



## ■ 関東において感じるジレンマ

- ・ 関東在住だからこそそのジレンマを、9割の方が感じた経験がありました。 釜石・大槌に行きたい、でも行っても役に立てない、という思いが上位を占めています。
- ・ 「釜石・大槌に行っても、現地の役に立てない」との回答は世代差が大きくありました。全体では43%ですが、60代以上では過半数を超えています。逆に釜石・大槌に限らず「被災地の支援に協力したいが、協力できない」は若い世代の方が多くなっていました。
- ・ 「釜石・大槌の人に、被災者の気持ちが分からないと思われそうで不安」「関東の人に、震災とは関係ない人とみなされてつらい」といった、被災地と被災地外の間で挟まれるような感情も、若い世代に比較的多い傾向にありました。

## 震災後に感じたジレンマ(葛藤)

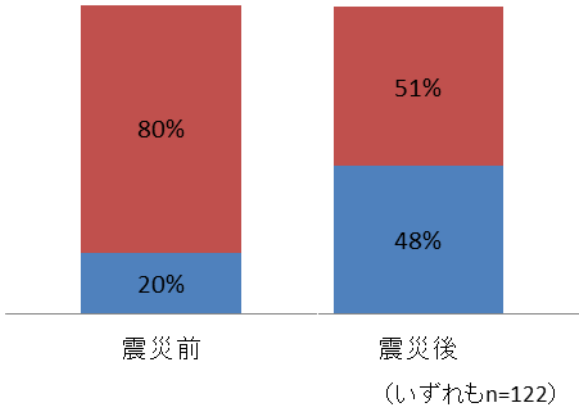


## ■ 震災前後のふるさとへの思いの変化

- ・ 「震災前に釜石・大槌にUターンしたいと思っていた」との回答は20%でしたが、「震災後に釜石・大槌にUターンしたいと思ったことがある」という人は48%にのぼりました。20・30代では、7割の人が、震災後にUターンしたいと思った経験があるとのこと。
- ・ 関東で釜石・大槌に関わる会に参加する方も、震災後に増えています。こちら若い世代の参加率の上昇が目立ちます。震災を経て、故郷への関わり方が、私的な友達付き合いの範囲を超える形へと変わってきているのかもしれない。

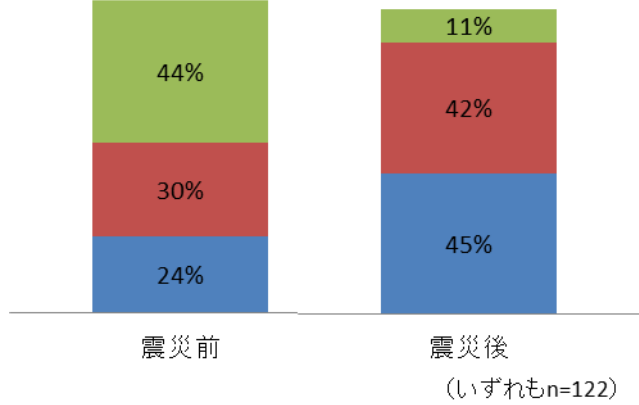
## 釜石・大槌にUターンしたいと...

- 思っていなかった
- 思ったことはない
- 思っていた
- 思ったことがある



## 関東で釜石・大槌に関わる会に...

- 参加したいと思っていなかった
- 参加したいと思ったことはない
- 参加していなかったが、したいと思っていた
- 参加していないが、したいと思ったことがある
- 実際に参加していた
- 実際に参加している

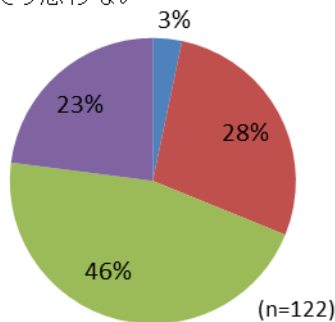


## ■ 釜石の復興について

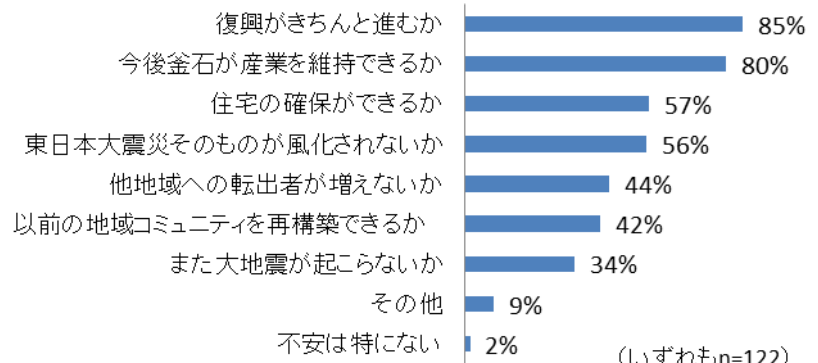
- ・調査時点で、釜石の復興については、「進んでいると思わない」「どちらかといえば進んでいると思わない」の合計が69%でした。
- ・釜石市の今後について不安に思うことでは、「復興がきちんと進むか」とともに、「今後釜石が産業を維持できるか」が圧倒的に多くなっていました。60代以上の方や女性は特に多くの問題に不安を示す傾向がありました。
- ・全体では40%台にとどまっている「以前の地域コミュニティを再構築できるか」「他地域への転出者が増えないか」については、釜石への訪問回数が多い人の場合、不安に思っている割合が高めでした。

## 釜石市の復興は進んでいると思うか

- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない



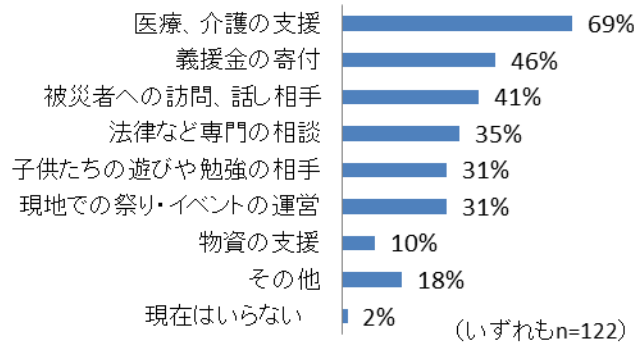
## 釜石市の今後について不安に思うこと



## ■現在、釜石・大槌に必要なと思う支援

- ・現在、必要だと思う支援については、「医療・介護の支援」と答える人が69%と突出しています。「義援金の寄付」と「被災者への訪問・話し相手」が40%台で続きます。話し相手や、義援金・物資が必要だと思っている方は、上の世代に多くなっていました。「その他」には、産業振興、雇用、まちづくりに関する記述が多くみられました。

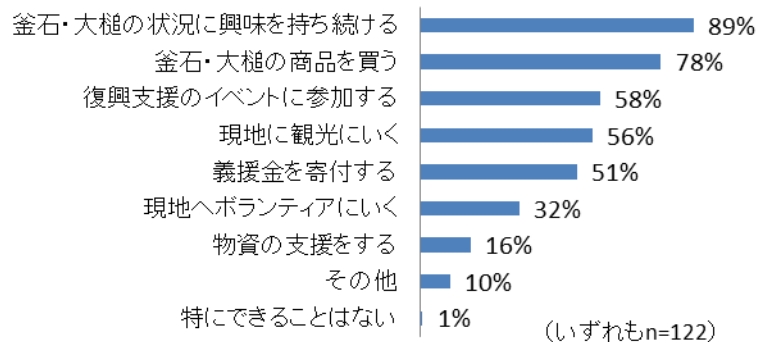
### 現在、釜石・大槌に必要なと思う支援



## ■関東に住む人が釜石・大槌のためにできると思うこと

- ・関東に住む人ができると思うことについては、「釜石・大槌の状況に興味を持ち続ける」が89%、「釜石・大槌の商品を買う」が78%にのびります。
- ・「現地へボランティアに行く」は32%で、相対的にハードルが高いようです。むしろ観光でもよいから現地に行くことを、50代以下の方は積極的に評価する傾向でした。
- ・「その他」の記述では、他の人が被災地に興味を持つような情報伝達について多く挙げたとともに、現地の人の自主的な行動を支えることという趣旨の記述も見られます。

### 関東に住む人が、釜石・大槌のためにできると思うこと



## ■おわりに

今回の質問紙調査からは、関東在住の釜石ゆかりの方々が、被災地を支援するために多くの行動をとり、関心を寄せ続けていることが、あらためて明らかになりました。

義援金を集める活動は、多くの人の思いを形にする場として機能したと考えられます。また、長期的に何度も現地を訪れて活動する方たちや、関東での情報発信に努める方たちもいます。釜石の家族を支えることで精一杯との声もありましたが、家族を支えること自体が、被災地外からの大きな支援の一部でもあります。

一方、若い世代は仕事等の制約から、また高齢の世代は移動等に伴う体力的な問題から、現地に思うように関われないという悩みも、数値の端々から感じられました。また、現地の方たちとのどのような距離感が、長く支援を続けるうえで適切なのか、被災地外にいる“身内”だからこそその課題も、意識されているようでした。

丁寧に被災地を支え続けたい、できることがあればいつでもしたいと思っている出身者・ゆかりの方たち。その存在は、被災地の貴重な長期的財産ではないでしょうか。

### <調査に協力して下さった方々>

・有効回答者 122 名中、40 代・50 代が回答者の 50%を占めて、男性が 61%です。

・成人前に一番長く住んでいた地域は 94%の方が

「釜石市」。85%の方が、成人前に一番長く住んだ地域を 18 歳までに離れています。

・震災前に釜石・大槌に家族・親戚以外で付き合いのある人がいた方は 88%にのぼり、付き合いのあった人数の中央値は 8.08 人です。

・震災時に、津波到達範囲内に家族・親戚が住んでいらした方が 64%、同じく親しい友人が住んでいらした方は 73%でした。

### <調査方法>

・対象は、岩手県釜石市に「成人前に居住または通学したことがある方で、現在関東にお住まいの方」です。

・釜石高校同窓会関東支部総会出席者へのアンケート用紙を配布し、また同支部学年幹事・釜石はまゆり会役員有志の方々からウェブアンケートへの回答依頼をメール転送等していただき、広義のスノーボール(雪だるま式)サンプリングで調査協力をお願いしました。

(単位:人)

|    | 20代・30代 | 40代・50代 | 60代以上 | 無回答 |
|----|---------|---------|-------|-----|
| 男性 | 16      | 34      | 22    | 3   |
| 女性 | 8       | 27      | 11    | 1   |

\*本調査は東洋大学社会学部の授業の一環として実施し、調査票作成・入力、集計表作成は受講生が行いました。集計表等は [http://www2.toyo.ac.jp/~y\\_nishino/](http://www2.toyo.ac.jp/~y_nishino/) をご覧ください。